

伊澤エイに関する研究(3)

富 川 知 加
田 川 典 子

はじめに

「伊澤エイに関する研究(I)」では、教育者としてのエイとダンスの基本的原理を追究する研究者としてのエイについて述べられていた。また「伊澤エイに関する研究(II)」では、欧州留学(昭和3年11月～昭和4年3月)における研修・活動を詳らかにすることによってエイのダンス理念確立の基点となるべき手がかりを得た。一方、帰国後のエイは意欲的にダンス作品の創作を行い、昭和6年～昭和39年の33年間に260余の作品を創り、残している。当然のことながら、これらの作品の中には欧州留学における、研修の成果が何らかの形となって提示されているものと考えられる。そこで本稿は、「伊澤エイに関する研究(3)」としてエイのダンス作品に注目してみた。まず渡欧前の作品と帰国後の作品の傾向を動作分析によって調査し、両者の比較を試みる、更にその結果と留学中の研修活動との間にどのような関連性があるのか、探ってみようとするものである。

方 法

1. 対象作品の選定

「伊澤エイに関する研究(I)」における作品一覧¹⁾に基づき、以下の6作品を研究対象とした。これによると、渡欧前の作品としては下記の3作品が載げられている。また、帰国後の作品は260余にのぼるが本研究では、帰国直後の3作品を取り上げた。

・渡欧前の作品

「胡 蝶」 大正15年3月 (288呼間)
 「二羽の蝶」 昭和2年2月 (192呼間)
 「遊びましょう」 昭和2年10月 (128呼間)

・帰国後の作品

「モルゲンロート」 昭和6年1月 (112呼間)
 「フレンチマーチ」 昭和6年1月 (320呼間)
 「蝶のたわむれ」 昭和6年1月 (176呼間)

カッコ内の数字は実動呼間数で、渡欧前の作品と帰国後の作品それぞれのトータルは608呼間と、同一である。

2. 略図と舞踊符による動きの分析

伊澤エイ著「体育ダンス」(昭和6年1月31日)における作品解説をもとに、対象となる6作品の動きを略図化し、それに舞踊符を同時進行させて、作品全体の流れを把握する。略図及び舞踊符の取り扱いについては、田川典子・高橋繁美著「図説ダンスの基本運動」(昭和58年7月5日)の凡例²⁾に則り、進行させる。(図1～図46参照)

3. 動きの分類

(1) 2で明らかになった個々の動きについてその主たる運動要素は何であるかを基本運動の観点から見極め、その運動別に分類する。分類及び基本運動の設定については、「図説ダンスの基本運動」に則る。ただし、便宜上基本運動の内容を細分化し、通し記号を付け表1のようにする。以後、表1の通し記号を基本運動名の代わりとする。(表1参照)

表1 基本運動分類表

I 緊張・解緊	(a) 緊張
	(b) 解緊
II 重心移動	(c) 山型・水平・舟底型移動
	(d) 歩(ウォーキング)
	(e) 走(ランニング)
	(f) 跳躍(ジャンプ)
	(g) 各種ステップ
	(h) 平均(バランス)
	(i) 倒
III 振動	(j) 振動(振る)
IV 弾性	(k) 弾性(弾む)
V 蛇動	(l) 蛇動(動揺)
VI その他	(m) ポーズ
	(n) 手拍子

(2) 基本運動別に分類されたものが、それぞれの作品の中でどのような展開をしているのかみるために、その運動と呼間数を作品の流れに沿って帯状に図表化する。(表2～表7参照)

4. 基本運動の使用頻度調査

(1) 作品別にみる使用頻度

一つの基本運動が、一つの作品中に使われている頻度をみるために、その運動毎に実動呼間数をトータルし、作品別の表とする。(表8, 表9参照)

(2) (1)の表より渡欧前の作品と帰国後の作品をそれぞれトータルし、比較表とする。(表10参照)

5. 基本運動別比較グラフ

4-(2)の表8, 9をパーセンテージに換算して(608呼間を100%とする)渡欧前と帰国後と比較するグラフを作成する。(グラフ1参照)

図1 「胡蝶」 (配列) 体操隊形

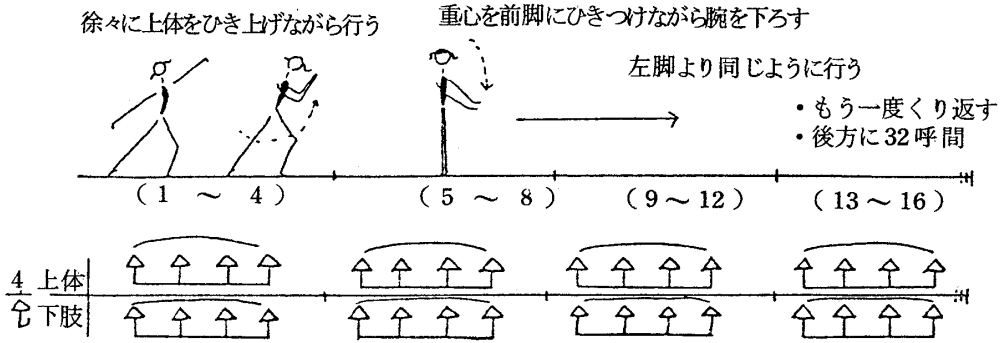


図2

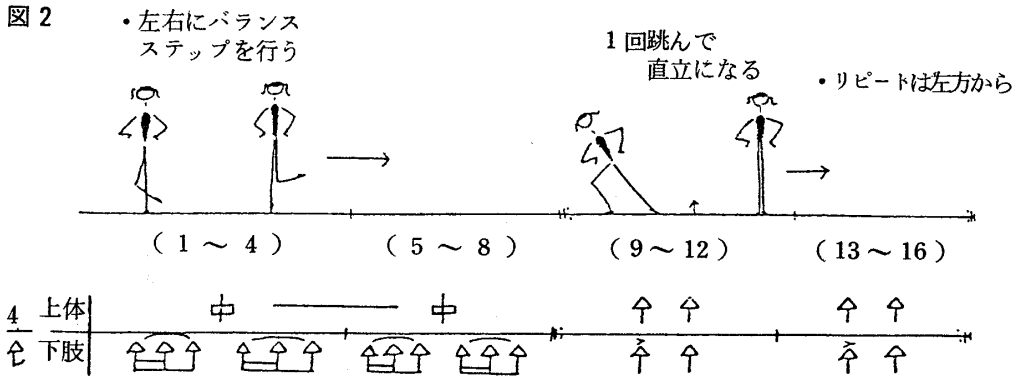


図3

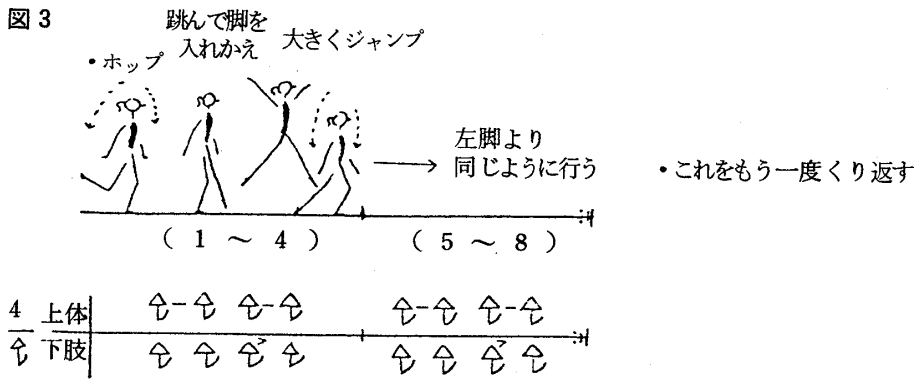


図4

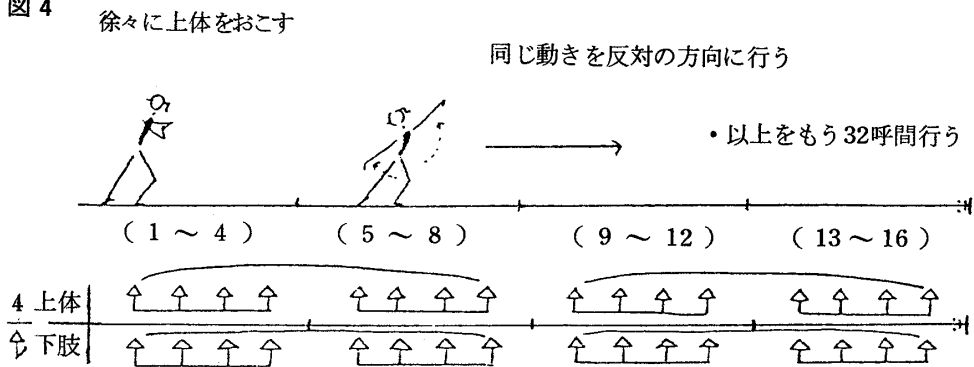


図5

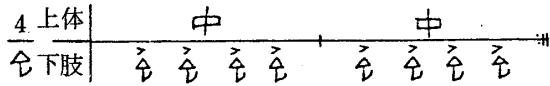
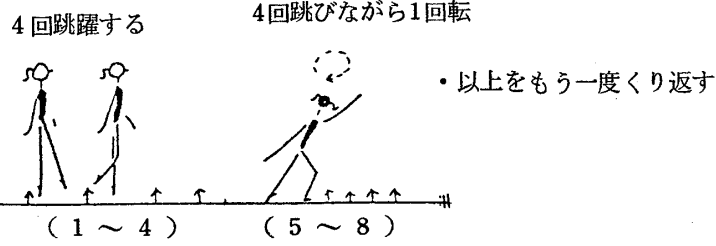


図6

ゆっくり下ろす

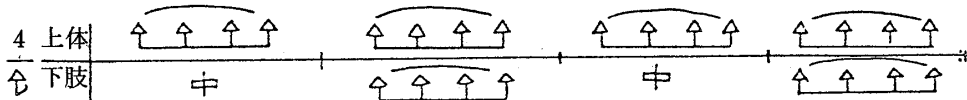
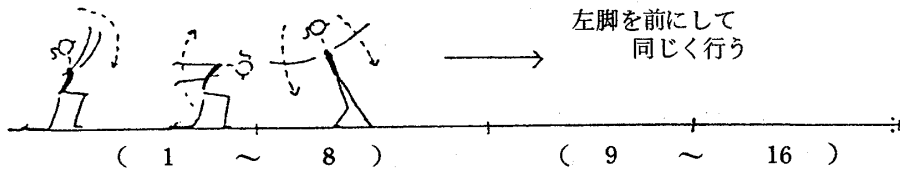
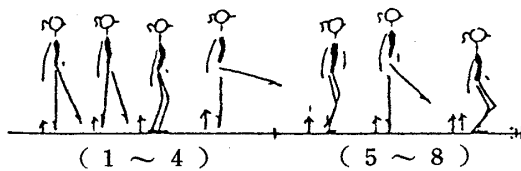


図7

全て跳びながら行う

両脚とび2回



- ・くり返しは左脚より
- ・以上をもう一度

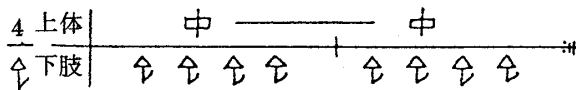


図8

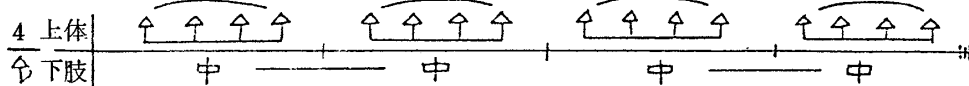
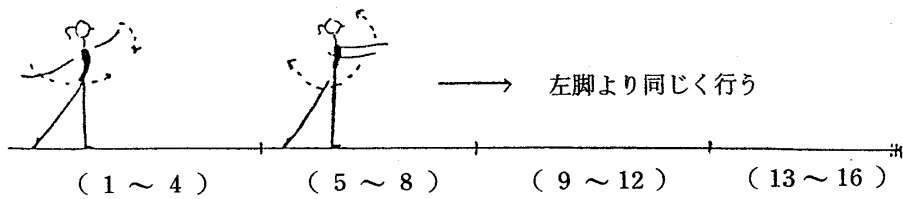


図9 (配列) 2列からなる2個又は3個の正面柱をつくり各柱の間隔を6歩とする

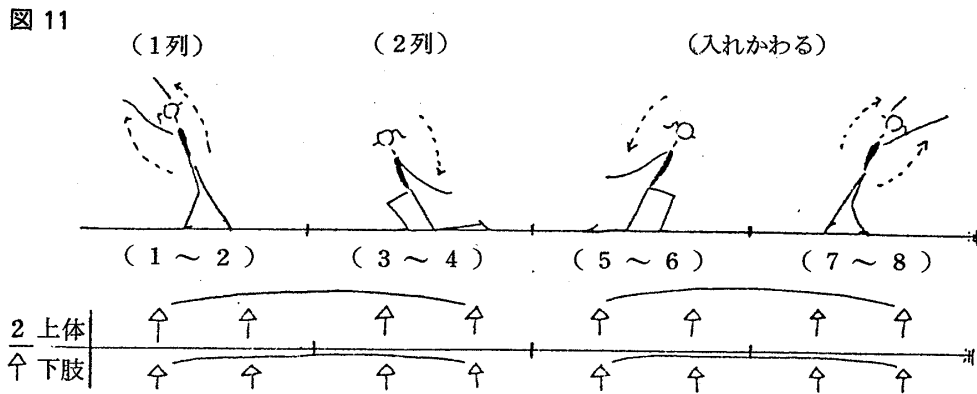
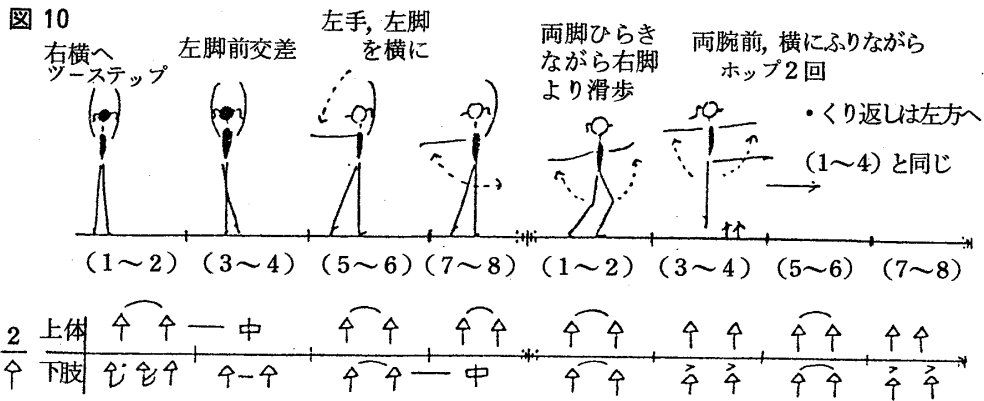
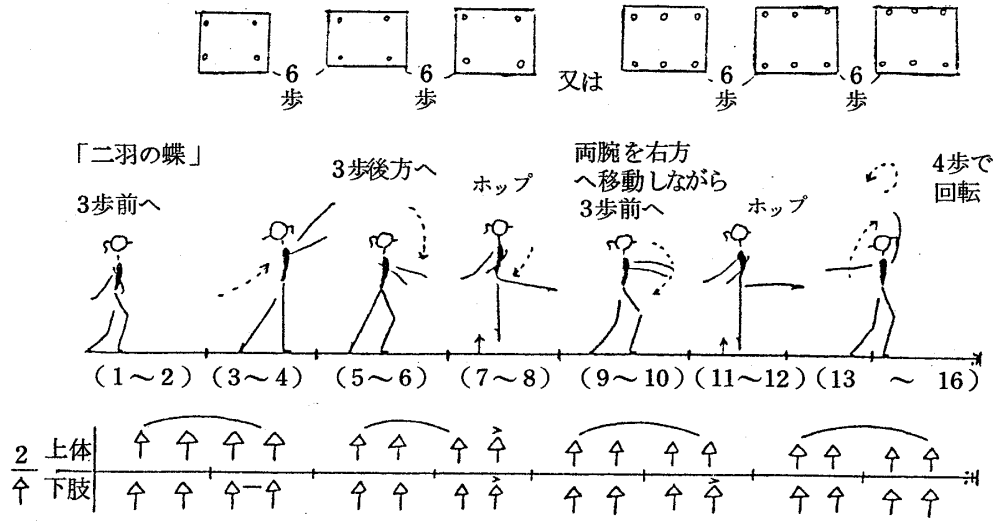


図 15 右脚より右斜前へ3歩

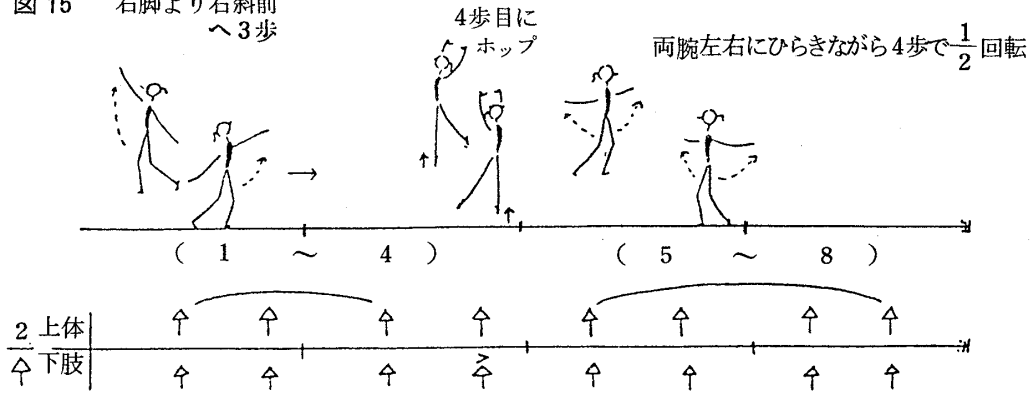


図 16 右脚より3歩前へ

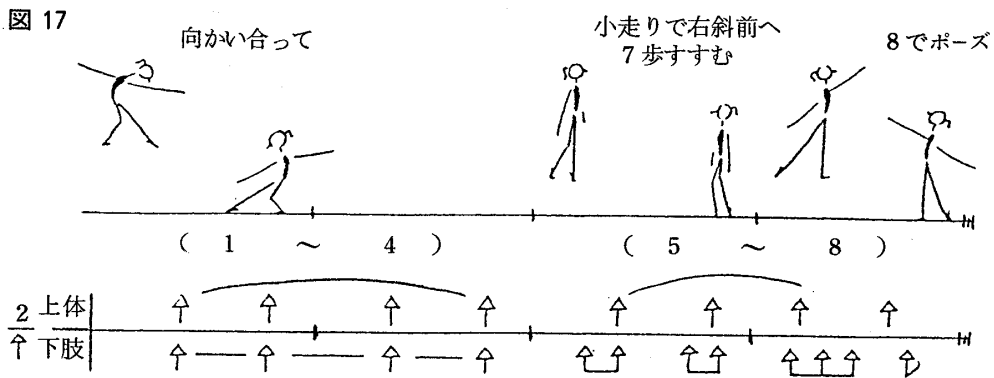
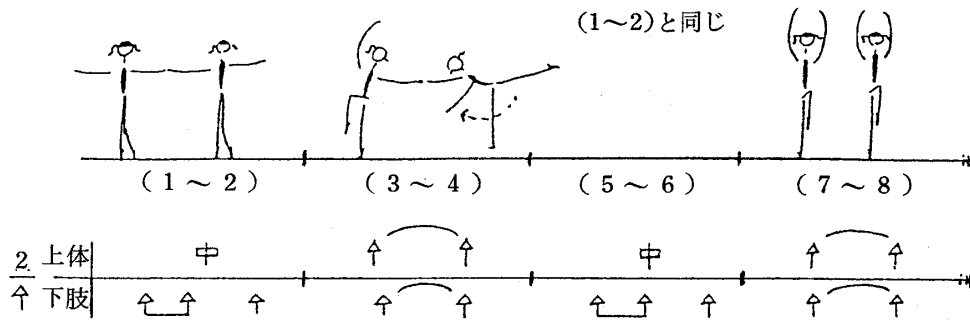


図 18 スキップでもとの位置にもどる

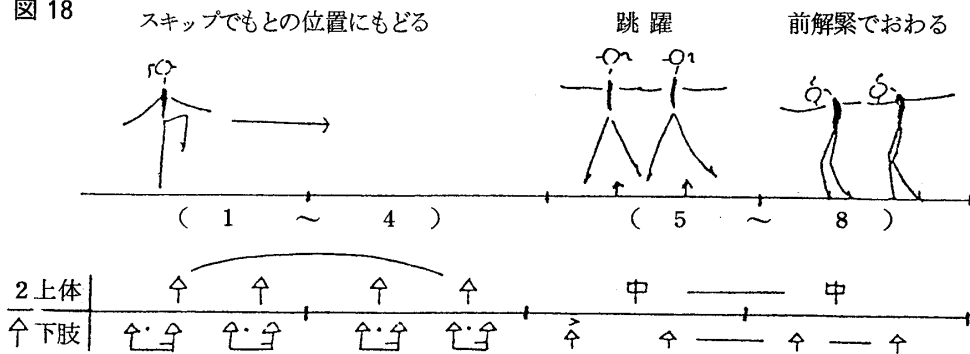
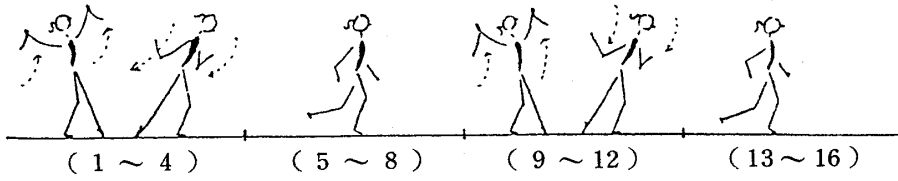
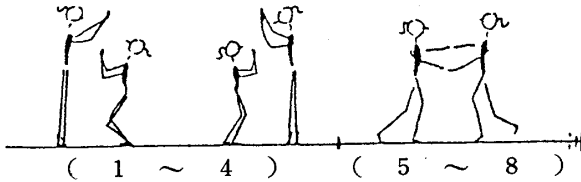


図 19 「遊びましょう」(配列) 一重円 左まわり (1~4)と同じ (5~8)と同じ
 連手して腕を振る ランニング



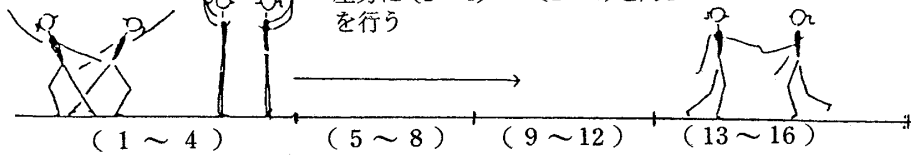
4 上体	↑-↑	↑-↑	↑	↑	↑	↑	↑-↑	↑-↑	↑	↑	↑	↑
↑ 下肢	↑-↑	↑-↑	↑	↑	↑	↑	↑-↑	↑-↑	↑	↑	↑	↑

図 20 拍手する 歩いて位置交換



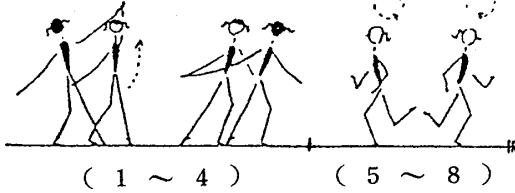
4 上体	↑-↑	↑-↑	□
↑ 下肢	↑-↑	↑-↑	↑

図 21 顔を見る 拍手 左方に(1~4) (1~4)と同じ
 左方に行う 新しい相手と左手連手し 半回転し最後に向い合う



4 上体	↑-↑	↑-↑	↑-↑	↑-↑	↑-↑	↑-↑	□
↑ 下肢	↑-↑	↑-↑	↑-↑	↑-↑	↑-↑	↑-↑	↑

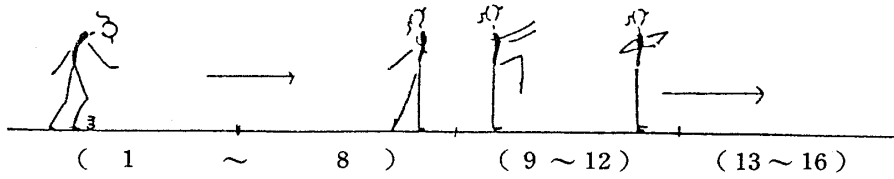
図 22 連手した腕を 振り上げる もどす 外にランニングで1回転



4 上体	↑-↑	↑-↑	↑	↑	↑	↑
↑ 下肢	↑-↑	↑-↑	↑	↑	↑	↑

図 23

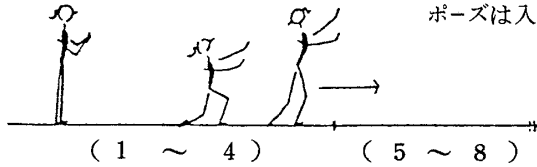
弾みながら
ボールをつくように
強くついて
見上げる
ボールをキャッチ
するポーズ
脚をもどし
肘をはる
(9~12)と同じ



4 上体	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
↑ 下肢	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑

図 24

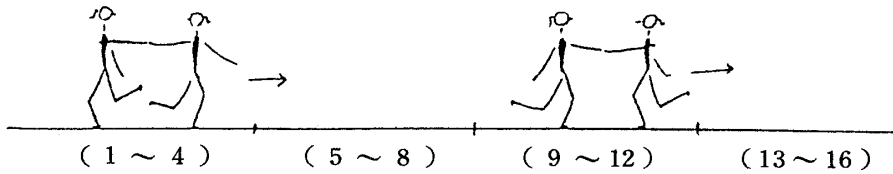
拍手 2 回
鬼ごっこのポーズ
同じく行うが
ポーズは入れかわる



4 上体	↑	↑	中	中	↑	↑	中	中
↑ 下肢	中	中	↑	↑	中	中	↑	↑

図 25

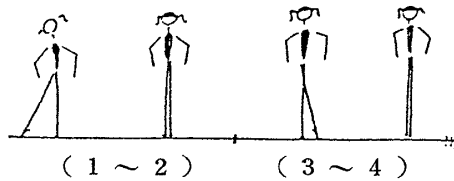
右手をつなぎ跳びはねながら 1 回転
左手をとって同じく行う



4 上体	□	□	□	□	□	□	□	□
↑ 下肢	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑

図 26 「モルゲンロート」(配列)体操隊形

右脚右横へ 正面に つま先ポン もどす



- ・スカートを持ったかんじで行う
- ・くり返しは左より行う
- ・更にもう一度くり返す

2 上体	↑	↑	中	中
↑ 下肢	↑	↑	↑	↑

図 27

両腕前交差より振る

小走りで左横へすすむ

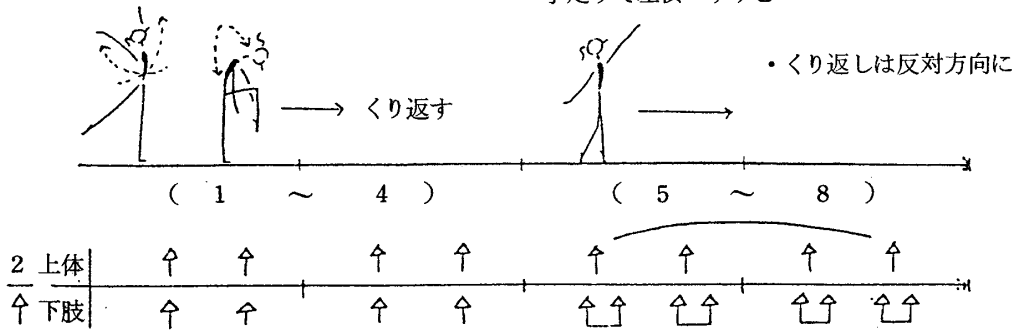


図 28

右脚右斜前に出し
両腕振り上げる

腕を入れかえ
右脚を後方へ

右脚右横に出し
ながらポーズ

・以上をもう一度
右方へ

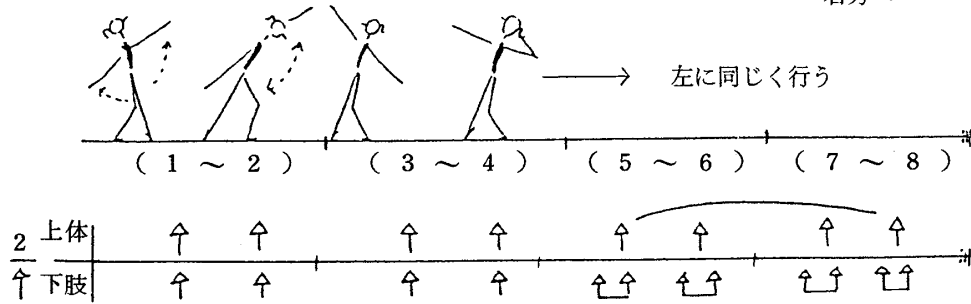


図 29

右腕右脚を大きくまわす

左脚交差回転
1/2 回転
右脚右横へ

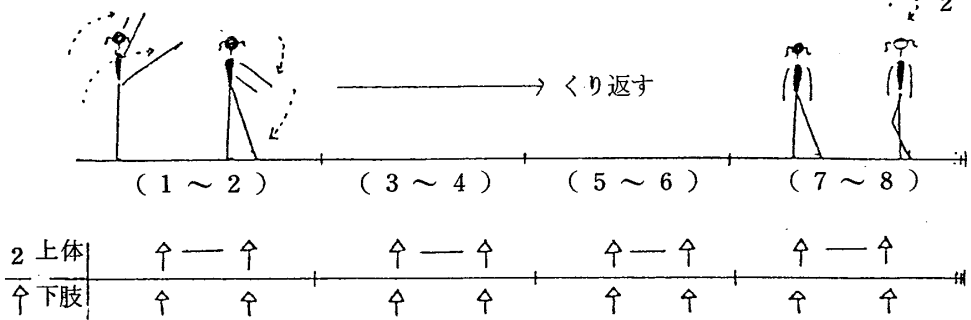


図 30

緊張する

左脚を前に出して
解緊

(13~16) 起立する

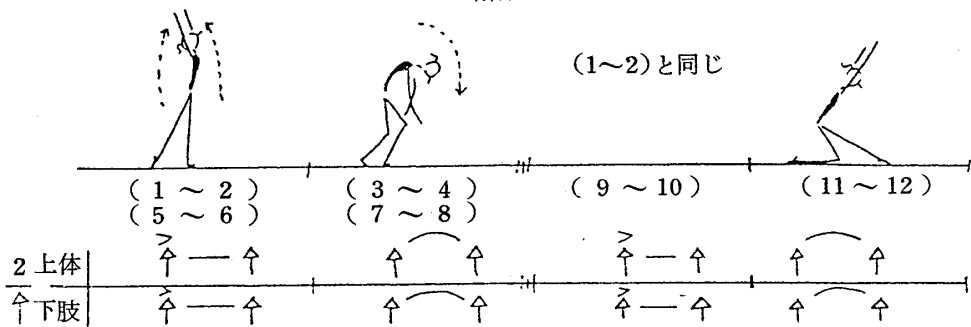


図 35

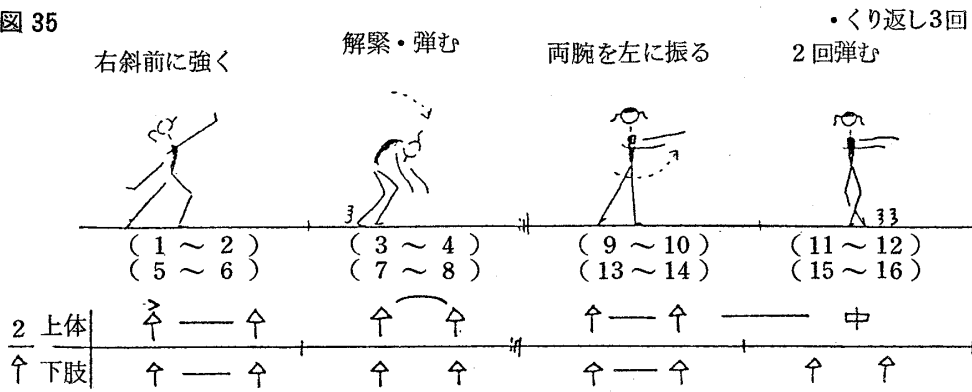


図 36

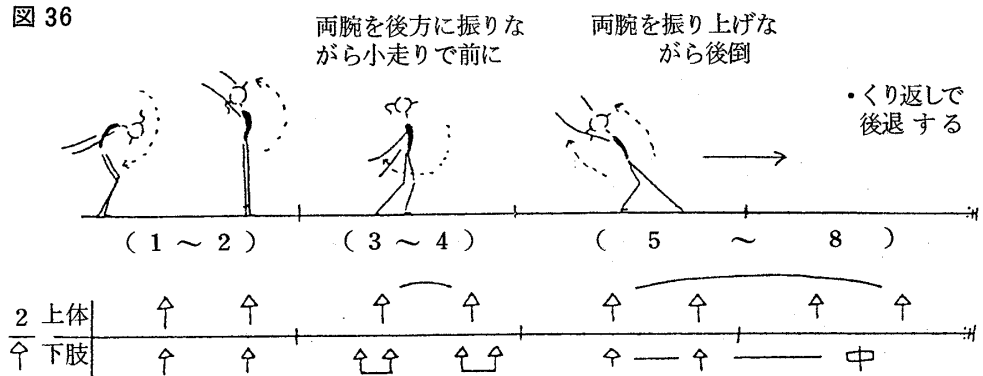


図 37

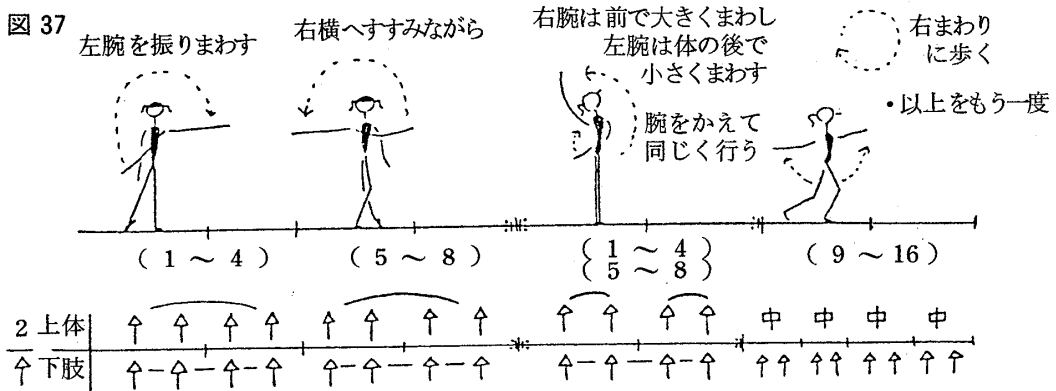


図 38

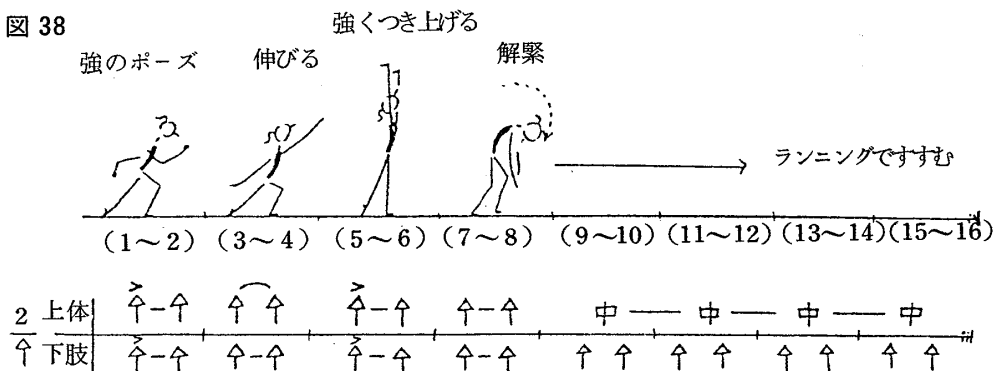


図 43 バランスをとりながら屈伸3回

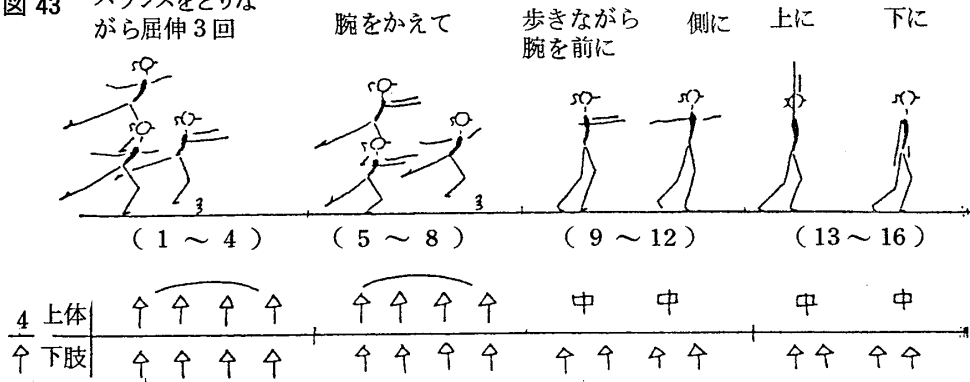


図 44 重心を1で前に 2で後ろに移す 3~4その場足踏

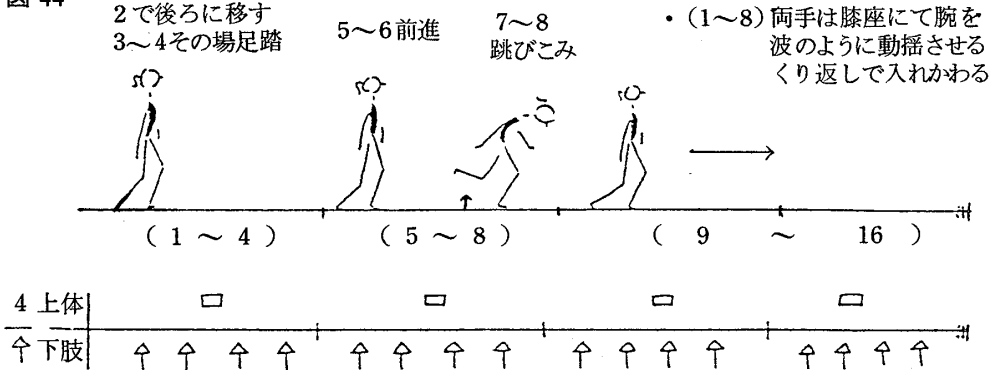


図 45 連手し、スキップ8回行う

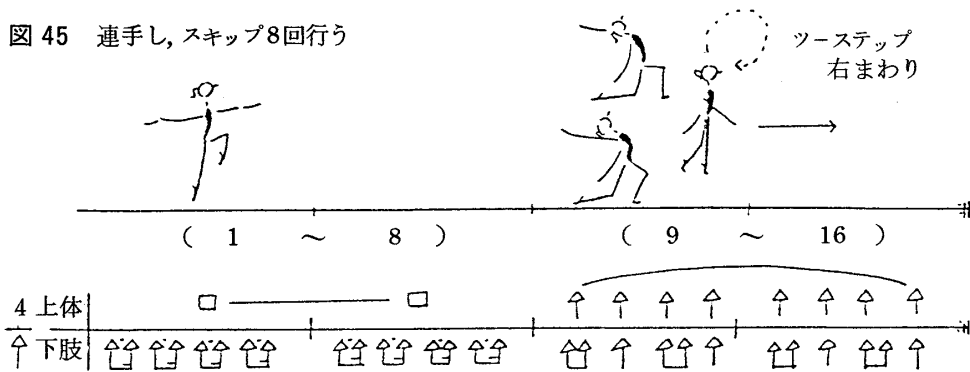


図 46 4歩すすみながら連手

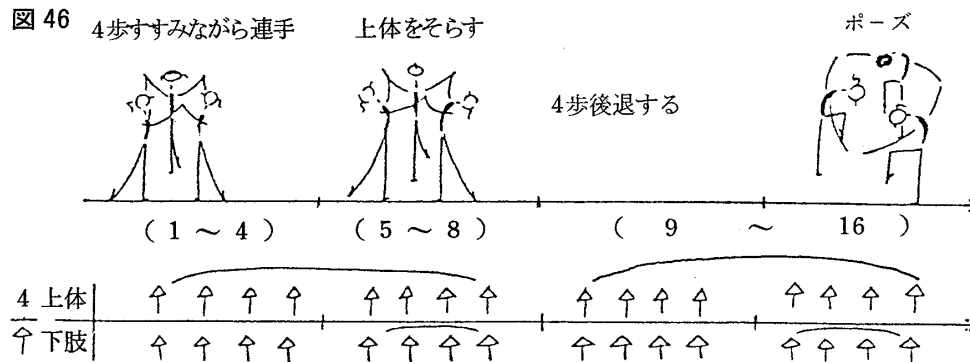


表 2

胡蝶

(288 呼間)

0	4	8	12	16	20	24	28	32	36	40	44	48	52	56	60	64	(呼間)
c																	
64	68	72	76	80	84	88	92	96	100	104	108	112	116	120	124	128	(呼間)
g		i	i	i	i	i	i	f								m	
128	132	136	140	144	148	152	156	160	164	168	172	176	180	184	188	192	(呼間)
m								f									
192	196	200	204	208	212	216	220	224	228	232	236	240	244	248	252	256	(呼間)
b	i	b	i	b	i	b	i	f									

表 3

二羽の蝶

(192 呼間)

0	4	8	12	16	20	24	28	32	36	40	44	48	52	56	60	64	(呼間)					
d	f	d	f	d	f	d	f	d	g	m	j	g	m	j	c	f	c	f	c	f	e	f
64	68	72	76	80	84	88	92	96	100	104	108	112	116	120	124	128	(呼間)					
j	i	j	i	f	c	f	m	f	c	f	m	g	j	d								
128	132	136	140	144	148	152	156	160	164	168	172	176	180	184	188	192	(呼間)					
d	f	d	f	d	h	d	h	d	h	d	h	m	e	m	e	m	e	g	f	b		

表4 遊びましょう (128 呼間)

0	4	8	12	16	20	24	28	32	36	40	44	48	52	56	60	64(呼間)					
j	e	j	e	n	d	n	d	i	n	i	n	i	n	d	i	n	i	n	i	n	d
64	68	72	76	80	84	88	92	96	100	104	108	112	116	120	124	128(呼間)					
j	e	j	e	k	m	h	m	h	m	n	m	n	m	n	m	n	m	n	m	e	

表5 モルゲンロート (112 呼間)

0	4	8	12	16	20	24	28	32	36	40	44	48	52	56	60	64(呼間)					
m				j	e	j	e	j				c	j	c							
64	68	72	76	80	84	88	92	96	100	104	108	112	116	120	124	128(呼間)					
a	b	a	b	a	i	a	i	m	f	c	m	m	m	m	c	f	j	h	j	h	j

表6 フレンチマーチ (320 呼間)

0	4	8	12	16	20	24	28	32	36	40	44	48	52	56	60	64(呼間)												
j	c	j	c	j	l	j	l	j	j	l	j	l	j	j	l	j	l	j										
64	68	72	76	80	84	88	92	96	100	104	108	112	116	120	124	128(呼間)												
j	l	j	l	j	a	b	a	b	j	k	j	k	a	b	a	b	j	k	j	k	a	b	a	b	j	k	j	k
128	132	136	140	144	148	152	156	160	164	168	172	176	180	184	188	192(呼間)												
a	b	a	b	j	k	j	k	j	i	j	i	j				d												
192	196	200	204	208	212	216	220	224	228	232	236	240	244	248	252	256(呼間)												
j				d				m	m	a	b	b		m	m	a	b	b										
256	260	264	268	272	276	280	284	288	292	296	300	304	308	312	316	320(呼間)												
d	j	a	b	j				j				j				m												

表7 蝶のたわむれ (176呼間)

0	4	8	12	16	20	24	28	32	36	40	44	48	52	56	60	64
g	e	m	g	e	m	l			e	k	d					
64	68	72	76	80	84	88	92	96	100	104	108	112	116	120	124	128
k		d	l			c	d	f	d	g		g				
128	132	136	140	144	148	152	156	160	164	168	172	176	180	184	188	192
g		i	d	m	d	m	d	m	d	m						

表8 渡欧前の作品

作品 運動	作品				Total
	胡蝶	二羽の蝶	遊びましょう		
I	a	0	0	0	0
	b	16	2	0	18
II	c	96	12	0	108
	d	0	66	16	82
	e	0	12	32	44
	f	84	24	0	108
	g	8	16	0	24
	h	0	8	4	12
	i	20	8	12	40
	III	j	0	20	16
IV	k	0	0	6	6
V	l	0	0	0	0
VI	m	64	24	14	102
	n	0	0	28	28
Total	288	192	128	608	

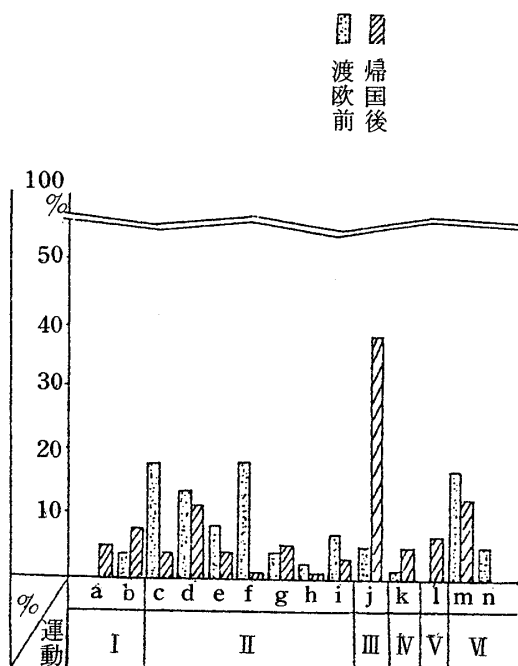
表9 帰国後の作品

作品 運動	作品				Total
	モルゲンロート	フレンチマーチ	蝶のたわむれ		
I	a	8	22	0	30
	b	4	40	0	44
II	c	6	12	2	20
	d	0	20	44	64
	e	8	0	12	20
	f	6	0	2	8
	g	0	0	32	32
	h	2	0	0	2
	i	4	8	8	20
	III	j	50	172	0
IV	k	0	16	16	32
V	l	0	16	28	44
VI	m	24	14	32	70
	n	0	0	0	0
Total	112	320	176	608	

表 10 作品比較表

グラフ 1

運動	作品	渡欧前(%)	帰国後(%)	帰国後-渡欧前
I	a	0(0)	30(5)	+ 30
	b	18(3)	44(7)	+ 26
II	c	108(18)	20(3)	- 88
	d	82(13)	64(11)	- 18
	e	44(7)	20(3)	- 24
	f	108(18)	8(1.7)	- 100
	g	24(4)	32(5)	+ 8
	h	12(2)	2(0.3)	- 10
	i	40(6.5)	20(3)	- 20
III	j	36(5.5)	222(37)	+ 186
IV	k	6(1)	32(5)	+ 26
V	l	0(0)	44(7)	+ 44
VI	m	102(17)	70(12)	- 32
	n	28(5)	0(0)	- 28
Total		608(100)	608(100)	



結果と考察

図1～図25及び表2～表4, 表8より, 渡欧前の作品傾向を推察することができる。まず著しく多くみられる動きとして, ㉓ 重心の山型・水平・舟底型移動 108 / 608 呼間と, ㉔ 跳躍 108 / 608 呼間, ㉕ ポーズ 102 / 608 呼間があげられる。また, 著しく少ない動きとしては, ㉖ 緊張 0 / 608 呼間, ㉗ 弾性 0 / 608 呼間, ㉘ 蛇動 6 / 608 呼間があげられる。以上のことがらと図1～図25とを合わせてみると, 渡欧前の作品傾向として考えられることは, ポーズ(静止)したり, 強いアクセントの跳躍や一定のリズムの中でくり返される重心の移動などによる, 断続する動きのリズムが中心となる構成であることが窺える。同様に図26～図47, 表5～表7, 表9より帰国後の作品傾向をみてみると, まず, 目立って多くみられる動きとして ㉙ 振動 222 / 608 呼間があげられる。また, ㉚ 緊張 30 / 608 呼間, ㉛ 解緊 44 / 608 呼間, ㉜ 各種ステップ 32 / 608 呼間, ㉝ 弾性 32 / 608 呼間, ㉞ 蛇動 44 / 608 呼間など, これらの動きがほぼ平均的に使用されていることも特徴的なことがらと言えよう。一方, 著しく少ない動きとしては, ㉟ 手拍子 0 / 608 呼間, ㊱ 平均(バランス) 2 / 608 呼間, ㊲ 跳躍 8 / 608 呼間があげられる。以上のようなことより, 帰国後の作品の傾向としては, 振動運動を中心とし, 緊張・解緊・弾性・蛇動・各種ステップなどから成るリズムカルで多様な動きのリズムと流れを持つものが考えられる。

次に表10より渡欧前の作品と帰国後の作品を比較し, 特に帰国後の作品の特徴を探ってみる。まず帰国後の作品で著しく増大した運動としては, ㊳ 振動 (+ 186), 次いで㊴ 蛇動 (+ 44),

㉑緊張(+30), ㉒弾性(+26), ㉓解緊(+26)となっている。著しく減少したものとしては, ㉔跳躍(-100), 次いで㉕重心の山型・水平・舟底型移動(-88), ㉖ポーズ(-32)があげられる。これらのことは, 前述の作品傾向と類似していることを示しているが, 言い換えれば, <Ⅰ>緊張・解緊, <Ⅲ>振動, <Ⅳ>弾性, <Ⅴ>蛇動などの基本運動要素が, 帰国後の作品にはっきり打ち出されているということが言える。

次に, これまでの結果と, エイの留学研修との関連性について考えてみる。留学中のエイの研修活動については「伊澤エイに関する研究(Ⅱ)」³⁾において明らかにされているが, 先の結果と深いつながりが考えられる研修としては, ボーデの自然体操があげられる。エイは留学中にボーデの体操実施コースとボーデの書物解説特別指導を受けている。そしてその体操実施コースの練習内容として, 1.解緊練習, 2.振動練習, 3.緊張練習, 4.反衝(抵抗)練習, 5.表現練習があげられていた。また大変意欲的にボーデの自然体操理念体得に取り組み, エイ自身も「ボーデの自然体操が, 全部の根本になっている。」⁴⁾と述懐していることから, 多大な影響下にあったことが推察できる。

おわりに

本研究は, 伊澤エイのダンス作品の動きに焦点を搾って進めてきたが, 帰国後の作品「蝶のたわむれ」には最後に注意として以下のようなことがらが書かれていた。「此のダンスは蝶が集まっては離れ, 離れては集まる気持ちを表し円線上を始終相手に留意しもつれもつれて行進するのであります。」⁵⁾ここで初めて, 表現に関する解説がなされている。今後引きつづき作品読解を進めるに当たり, 動きの分析に加えて表現内容についても触れてみたいと考える。

参考文献

- 伊澤エイ 「体育ダンス」 昭和6年1月31日, 目黒書店。
- 田川典子・高橋繁美「図説ダンスの基本運動」 昭和58年7月, 新思潮社。
- 伊澤エイ 「図説体育ダンス」 昭和39年5月, 新思潮社。
- 山田敦子・田川典子「伊澤エイに関する研究(Ⅰ)」 東京女子体育大学紀要第16号。
- 山田敦子・田川典子「伊澤エイに関する研究(Ⅱ)」 東京女子体育大学紀要第17号。

注

- 1) 山田敦子・田川典子「伊澤エイに関する研究(Ⅰ)」東京女子体育大学紀要第16号。
- 2) 田川典子・高橋繁美「図説ダンスの基本運動」昭和58年7月, 新思潮社。
- 3) 山田敦子・田川典子「伊澤エイに関する研究(Ⅱ)」東京女子体育大学紀要第17号。
- 4) 山田敦子・田川典子「伊澤エイに関する研究(Ⅰ)」東京女子体育大学紀要第16号, p.98, 30行。
- 5) 伊澤エイ著「体育ダンス」昭和6年1月, p.101。

Study of Ei Izawa (Part 3)

Chika Tomikawa

Tsuneko Tagawa

The current investigation intended to determine the effect of Ei Izawa's study in Europe especially on her dance performances. For this purpose, her performances before and after study abroad, three each, were reviewed and evaluated. These performances were made available for visual understanding by use of charts and dance notes so that the total picture would be grasped. Each movement, then, was classified from the viewpoint of fundamental movement, and was examined.

The dance performances before her study abroad were found to have movements with discontinuous rhythms which consisted of poses, jumps with strong accents, locomotive moves that are repeated within a constant rhythm. After returning to Japan, the dance performances were found to center around swinging moves which consisted of tension, relaxation, snake movements, ballistic moves and steps, and it had succession of various rhythmic moves.

The most significant influence Izawa's dance performances received from her study abroad was considered to be Bode's natural gymnastics. In her post-study abroad performances, fundamental body movements were significantly observed. She studied such movements in the gymnastic activity course, like swinging, tension and relaxation practices. Izawa herself once mentioned that Bode's natural gymnastics was the general foundation. From such comments, it was suspected that she was quite eager in learning Bode's principles of natural gymnastics.

Further development in such visualization of her dance performances would provide overview of Izawa's dances and its changes in time course.